



埼玉工場印刷課
チームマネージャー
桜井 忍氏
「KOMORIは機械を提供するだけでなく、ノウハウの提供もあり非常に助かっています」



埼玉工場印刷課
チームマネージャー
木上 幸浩氏
「印刷機、後加工機ともに、KOMORIのサービスの実績を評価。今後も期待しています」



第二営業部マネージャー
後藤 忍氏
「抜き加工の仕事は、今はまだ外注していますが、アプリシアDC105を活用し、将来的に内製化する計画です」



第一営業部長
渡邊 照幸氏
「今、アセンブリの施設を新たに建設しています。それを生かすためにも、アプリシアDC105の抜き機能が必要になります」

きの部分だけを外注していた。外に出している部分を内製化することができれば、横持ちがなくなることで、さらなる品質の向上と納期短縮につながり、外注費の削減にもなります」

印刷からアセンブリまで一つの工場内で手掛ける

（株）メディアグラフィックスは、化粧品メーカーの事業部門として出発した背景を持ち、顧客の約7割が化粧品業界だという。安藤工場長は、「美」の分野は特に感覚を伴う質の高い印刷が求められます。当社は、長年の実績による蓄積されたノウハウがあり、化粧品会社をはじめとした美容系や健康食品系、美術関係の印刷物を多く受注しています」と、自信をのぞかせる。

同社は、2017年H・UV搭載リリース

ロング40（菊全判オフセット枚葉印刷機）導入、2018年クリーンルーム設置、2019年9月アプリシアDC105（菊全判寸延自動平盤打抜機）導入と、継続的な設備投資を実施している。その背景には、厳しい現状と強みを徹底的に生かす攻めの戦略があった。

「従来は印刷品質が高いという一点で安定的に受注できました。しかし、今は印刷物の需要自体がシユリンクしている状況。そこで、化粧品業界の仕事に精通している当社の強みをさらに生かすため、印刷工程の前後の仕事をもっと広げていくことにしました」と

ロンG40（菊全判オフセット枚葉印刷機）導入、2018年クリーンルーム設置、2019年9月アプリシアDC105（菊全判寸延自動平盤打抜機）導入と、継続的な設備投資を実施している。その背景には、厳しい現状と強みを徹底的に生かす攻めの戦略があった。

「従来は印刷品質が高いという一点で安定的に受注できました。しかし、今は印刷物の需要自体がシユリンクしている状況。そこで、化粧品業界の仕事に精通している当社の強みをさらに生かすため、印刷工程の前後の仕事をもっと広げていくことにしました」と

後藤マネージャー。H・UV搭載リリースロング40の導入により、色や絵柄の再現性の向上と、表裏反転してすぐに印刷・加工に移れるスピードと生産性を手に入れた。さらに、アセンブリ生産のために設置したクリーンルームは、化粧品と医薬部外品の製造許可を取得。印刷とアセンブリ、二つの領域を一つの工場内で手掛けていくというのがこれらの戦略の骨子になっている。そしてワンストップを実現させるピースとして、アプリシアDC105の導入だ」と、安藤工場長は語る。

「印刷からアセンブリの工程間で、抜

るようになりまし。H・UV搭載リリースロング40で刷り、アプリシアDC105で表紙だけ筋加工を行い、その間に本文を折り、その後、中綴じに掛けるという流れが社内です」と続けた。

上流から下流まで一貫して顧客をサポートできるような

今後は、アセンブリにも、アプリシアDC105の導入効果を波及させていく計画だ。後藤マネージャーは「例えば、顧客から『限定キットを販売したい』という話があった場合、これまでは販促の印刷物だけの仕事を視野に入れていました。しかし、アプリシアDC105を導入したことで、限定キットのパッケージデザイン・設計から入り、中に入れる商品の保管を含め、印刷、打ち抜き、形をつくり、アセンブリを行い、最終的にパッケージにして納品できるようにしました。上流から下流まで一貫して関わることができ、お客様にとっても大きなメリットを提供できると思っています」と語る。

メディアグラフィックスの今後について、安藤工場長は、「次は、アプリシアDC105にひも付けた戦略として、インプレミアス29（29インチ枚葉UVインクジェットデジタルプリンティングシステム）のような多角的なデジタル印刷機を入れることも考えています。そうすれば、本当の意味で、自社だけで最初から最後まで、多くの案件を完結できるようにになります」と意気込みを話された。

「アブリシアDC105の導入は、アセンブリにひも付けた内製化戦略の一環です。利益を確保していくために、新しいことにも取り組まなければなりません。『何か』を考えたとき、まっ先に取り掛かるべきなのが、内製化することだと思います」（安藤工場長）



埼玉工場長
安藤 信吾氏

「KOMORI機を選んだのは、不具合時の迅速な対応と日々の手厚いサポートが受けられるからです」

化粧品メーカーの事業部門として出発した株式会社メディアグラフィックスは、化粧品業界からの信頼が特に厚く、多くの印刷物を受注している。2017年H・UV搭載リリースロング40（菊全判オフセット枚葉印刷機）導入、2018年クリーンルーム設置に続き、2019年9月にはアプリシアDC105（菊全判寸延自動平盤打抜機）を導入した。その事業戦略とともに、アプリシアDC105の導入の背景と効果について、安藤信吾埼玉工場長、渡邊照幸第一営業部長、後藤忍第二営業部マネージャー、埼玉工場印刷課チームマネージャーの木上幸浩氏、桜井忍氏にお聞きした。

株式会社メディアグラフィックス

アセンブリ事業拡大にひも付けた内製化戦略を

アプリシアDC105の導入で推進。



埼玉工場



東京本社 / 東京都品川区西五反田8-9-5
FORECAST 五反田 WEST 3F
埼玉工場 / 埼玉県入間郡三芳町竹間沢新開371
https://www.mediagraphics.jp/
TEL / 049-259-1361

